

# 第6次派遣(いわき) 6月3日(金)～6月11日(土)

班長：本郷 義人さん (北 陸)  
安井 祐二さん (北 陸)  
小池 大輔さん (東 海)  
筒井 喬之さん (東 海)

## 《全労金第6次派遣、出発！》 6月3日



《左より、小池さん、筒井さん、安井さん、本郷さん》



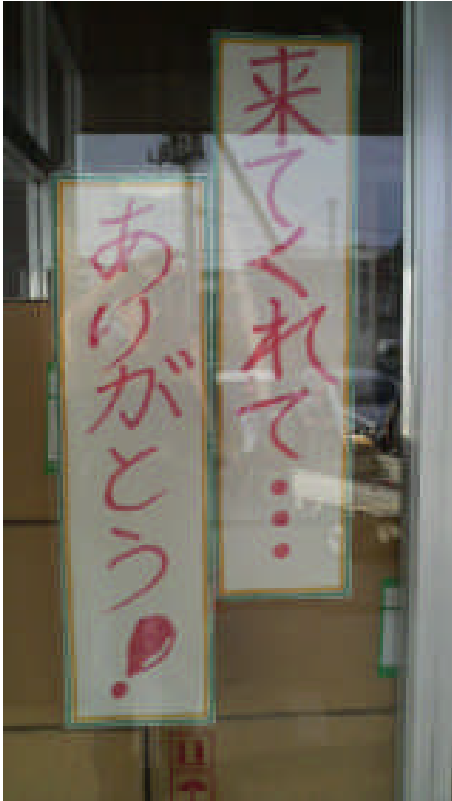
本日、全労金第六次派遣の4名が、いわきBCに出発しました。

派遣者は、北陸労組の本郷義人さん(委員長)と安井祐二さん(書記次長)、東海労組の小池大輔さん(副委員長)と筒井喬之さん(執行委員)の4名で、本郷委員長が班長の任を担われます。

全労金書記局2階会議室では、嘱託等組合員を対象とした「全国交流集会」を開催していただきましたので、交流集会の最後に、第5次派遣の3名(中央労組の安藤さん・井上さん、新潟労組の南雲さん)を労うと同時に、第6次派遣者(北陸労組の本郷さん・安井さん、東海労組の小池さん・筒井さん)を紹介し、参加者全員の大きな激励の拍手で送り出しました。

是非、全国の仲間からも、4名にエールをお願いします。

## 《第6次初日(無事にいわきBCへ)》 6月3日



第6次メンバーは、無事いわきBCに到着致しました。今日は、全労金全国交流集会の参加者から激励を受け、また、連合本部からの出発時にも盛大な見送りを受け、感謝と同時に身が引き締まる思いでいっぱいです。

さて、常磐道を北上し、茨城県に入ると屋根に青いビニールシートがかかっている家が散見されました。いよいよ被災地に入った事を実感しました。数年前の能登沖地震で影響のあった輪島や門前町の同じような状況を思い出し、胸が熱くなりました。

また、いわき市に入って訪れたボランティアセンター入口には、「来てくれて、ありがとう」の文字が…活動もしていない前から目頭が熱くなりました。市街地は、一見何事もなかったように見られますが、地盤沈下が激しく、至る所でその様子が見られます。いろいろな風評被害も出ているこの福島で下校中の明るい子供達や公園で元気に遊んでいる子供達の姿を見るとすごく救われます。

いわき市は、海岸線が60kmあり津波による被害が大きかった地域です。明日は、その海岸線にある久之浜町で作業予定です。今は、物静かな4人ですが、気持ちの高ぶりを抑えるのに必死です。明日は、少しでも被災された地域の方のお役に立つよう、心と体を一体にして、作業を行ってきます。(報告者 本郷)

## 《臨機応変に！》 6月4日



二日目の活動報告の前に…本日未明に我々が宿泊している「いわき市」近くの福島県沖を震源とするマグニチュード6の地震がありました。いわき市は震度4を観測したようです。と、いうのも、第6次派遣に参加している四人は地震が起きても、四人が四人共、誰も起きませんでした…中でも筒井さんは、地震にも気付かなかったようです。ブログのコメント欄には、多くの方から心配のコメントもいただいておりますが、結構タフなメンバーなのか、ただの鈍感なのかわかりませんが、とにかく四人は大丈夫です。心配して下さったみなさんありがとうございました。

さて、本日の活動です。天候は快晴、最高気温は、30度に達し、猛暑の中での活動となりました。タイトルの「臨機応変」ですが、この言葉を初日のオリエンテーションの際、連合の方に「ボランティア中は、臨機応変に対応してください」と言われました。早速、今日、その場面に出くわしました。翌日の活動は、前日に知らされます。実質、活動初日になる今日は、津波の被害にあった海岸近くの田んぼの瓦礫、土砂の撤去ということで、そのつもりで心の準備をしていましたが、当日、ボランティアセンターに行ったところ、田んぼには、重機が入るから必要ないので、津波で汚れた道路の清掃と側溝の掃除へ変更になりました。また、午後には、大丈夫だと言われた田んぼに急遽人数を派遣して欲しいと連絡があったりとホントに臨機応変が必要だと実感した一日でした。

写真は、重い側溝の蓋をどけている三人です。二人で運んでいるのは、本郷委員長と筒井執行委員、一人で頑張っているのは、安井書記次長です。今日の活動の依頼主は、自宅は津波で流されてしまったそうです。そんな中でも我々を気遣っていただいて、水の差し入れまでいただきました。依頼主の状況を思うと、その好意に涙が出てきそうでした。

そういった地元の人々の好意に多々遭遇します。今日も夕ご飯を食べに行ったお店でも、我々がボランティアとわかると、通常の品より品数を多めに提供してもらった上に感謝の言

葉もいただきました。我々が勇気付けに来てるつもりが逆に勇気づけられています。四人ともモチベーションは相当高いです。まだ、来て早々ですが、ボランティアに参加の場を設けていただいた全労金と快く送り出していただいた職場に四人とも感謝しています。

明日も猛暑が予想されますが、我々のできることを着実にこなして行こうと思っています。

ホテルは快適で、部屋にもユニットバスがありますが、何ととっても大浴場は最高です。小池は毎日三度は行きます。朝はシャワーも浴びれます。シャンプー等も備え付けがあります。ホテルの周りには徒歩7分のところにスーパーと薬局もありますので、ほぼ何でも揃います。わざわざ地元で買って持って来なくてもいいぐらいです。夕ご飯も、ボリューム満天の「蕎麦屋の東屋」、安くて地のものが美味しく食べれる「たこはち」など食には、困りません。次回以降に参加されるみなさん参考にしてください。

以上、小池が報告しました。では、大浴場に行ってきます！

## 《連携プレイ(第6次3日目)》 6月5日



《集積場所に土のう袋を下ろす筒井さん》



《左から筒井さん、小池さん、安井さん、本郷さん》

今回の全労金第6次派遣団についても、いわきBCを拠点に電機連合から27名、全電線から4名、連合本部から1名そして私達全労金4名の総勢36名で作業を行っています。

今日の作業は、海岸沿い豊間地区の側溝の泥上げであり、BC資材班の任務4名とは別の32名で作業にあたりました。朝から太陽が照り付ける中、連合派遣団の一員として全労金メンバーも汗だくになりながら活動を行いました。午後からの作業では、急遽、近隣にお住まいの方から作業依頼を受け、津波によって入り込んだ用水の砂上げを行いました。人がすっぽりを入れる用水では、スコップでの砂汲み上げ班、バケツ持ち上げ運び班、土のう袋バケツセット班など、連合派遣団の組織力を活かしての息のあった人海戦術、連携プレイで依頼作業を完遂しました。夕方からは曇り空となりましたが、作業二日間で全労金メンバーも日



《一輪車で土のう袋を運ぶ小池さん》

焼けでたくましさが増し、作業着姿も板に付いてきたと感じています。また本日は夕刻に、末留書記次長の激励訪問を受けました。これまでの作業内容の報告を行い、作業にあたってのアドバイス等を聞かせて頂きました。メンバー4人の士気は一層高まりました。末留書記次長、ありがとうございました。被災された方々の苦悩が少しでも緩和されればと、思いやりを持ちながら明日も一生懸命作業に取り組みます。(報告者 安井)

## 《活動3日目》 6月6日

初めての平日活動日。

通勤のためかボランティアセンターへ向かう道路が若干混雑していました。平日であることを感じ、この活動のために負担をかけている支部の皆様、ブログで応援メッセージをいただく方々、快く送り出してくれた家族、支えてくれている全ての方に改めて感謝の気持ちが込み上げてきました。

今日は後から来られる方のために活動外のこと書こうかと思いましたが、活動をするそちらで思うことの方が大きくなり、いつも通り活動の報告をします。

今月はボランティアセンターの施策で側溝の泥だしを中心に連合チームは活動しています。そんな中、今日は初めて一般民家の片付けの手伝いをしました。昨日までは、距離は短いまでも側溝が綺麗になり少しでも貢献出来たという思いになりました。しかし、民家の庭先の惨状は酷く何から手を着けてよいのか戸惑うばかり。作業を始めても遅々として進みません。作業のためだけに行った我々がその様な状況なので、被災された方々は生活もあり先の長い活動になることを改めて感じました。

さて、昼からも頑張って作業します。（報告者 筒井）

## 《活動3日目 その2》 6月6日



昼からは昨日同様、側溝の泥かきだし作業でした。

連合の組織力を目の当たりにした出来事を紹介します。ボランティアセンターに帰ると、受付や倉庫として利用しているプレハブの増設作業を業者さんが行っていました。終わると当然シャベル等道具を移す必要があります。シャベルだけで百本以上はあるのでしょうか。それをメンバーで列をつくりバケツリレーの要領で短時間で移動完了。社会福祉協議会の方も感心してみえました。

最後にクイズを。ボランティアセンター待合室壁の模造紙には沢山のメッセージが書かれています。4人もメッセージを書きました。本郷委員長と筒井のものを撮影しました。探してみてください。（報告者 筒井）

## 《作業4日目(折り返し日)》 6月7日



先ずをもって、ブログをご覧の皆さん、毎日、応援のコメントありがとうございます。確実にメンバーの活力になっています。ブログ担当順番の2周目という事で、今日は老体に鞭を打ち、腰の痛みでロボットのような動きの本郷が報告致します。(他の3人は、若いだけあって元気

ですよ。気を使って頂いています。)

昨日の寄せ書きの件では、皆さんに要らぬ時間を取らせてしまいました。左端の一番下の青色の寄せ書き「あなた達を絶対に見捨てない 富山県人」が私のです。最後は富山県人ではなく、全労金と書くべきでしたね。深くお詫び致します。昨晩は、いわきに入って初めてコインランドリーで洗濯ができました。宿舎にも洗濯機が一台ありますが、避難されている方もおられるので、我々は車でコインランドリーへ(当然ですよ)。そして「ラーメン花月」で翌日のパワー補給です。ニンニク入りですよー。もちろん、今朝は部屋の窓を全開放で空気の入れ換えです。食事の後は、いわき湯本駅前の地元のコンビニで支援ステッカーを購入しました。これも小さな支援ですよ。ここまでが昨晩の出来事です。

さて、今日の作業は、初日から続いた側溝の泥や砂出しではなく、津波によって被害を受けられた約200坪の敷地の砂や瓦礫のかき出しでした。炎天下の作業ですので、30〜40分毎に休憩を入れて水分補給を行います。そうしないと気持ちに体が付いて来ないのです。復旧活動にあたられている方々の苦労が本当に良くわかりました。作業中の写真や被災地の写真は、厳しくNGですが、許可を得て本日の成果を撮りました。全員、達成感に満ち溢れた表情でしょう。班長としてもこのメンバーを誇りに思います。

作業もあと3日となりましたが、最終日まで高いモチベーションを持続し、必ず全員でこの6次派遣の使命を完遂します。(報告者 本郷)

《第6次派遣六日目》 6月8日



写真一枚目は、ボランティア活動中に休息を取っている3人です。（左から、東海労組の筒井執行委員、北陸労組安井書記次長、北陸労組本郷委員長です）見にくいかもしれませんが、二枚目以降の写真は、放射能の測定値と原発付近の風向きが掲載されている新聞の記事です。

我々の活動も実質、残すところ、3日となりました。ここまで来ましたが、まだ4人のモチベーションは高いままです。それは何故か？

それは、みなさんがブログへコメントをいただいているお陰です。みなさんからいただく、コメントを毎日、4人で一言一句、拝見して力をいただいています。本当にありがとうございます。ブログを通じ改めて「絆」を実感しています。

ただ、4人ともモチベーションは高いんですが、年齢のせいか、いかんせん体がついてきません。「膝が痛い…」「腰が痛い…」などと報告しあうことが毎日の日課のようになってまっています。

それを察していただいたのか、本日は、午前中でボランティア活動は、終了し、午後からは、体を休める時間となりました。

さて、午前中の作業は、いわき市の四倉というところで、津波の被害で出たゴミの分別作業を行いました。

ゴミの量もさることながら、臭いも相当厳しいものがありました。ただ、そこは、我々



得意の連携プレーで、予定時間通り活動を終わらせることができました。

ボランティア活動は車での移動になります。異動中、車内のラジオでは、天気予報と同じような感じで、今日の各地域の放射エネルギーの測定値が流れて来ます。新聞には、添付写真のように各地域の放射エネルギーや原発付近の風向きが当たり前のようになっています。異様な感じがしましたし、不安も感じました。我々は少しの間しか滞在しませんが、福島に住んでいらっしゃる方は、そういう訳にはいきません。同じ日本人として福島の仲間がどんな気持ちで日常を過ごしているのかを察すると、「自分には何もできない」「やり切れなさや歯がゆさ」を感じています。

今日のブログは、ボランティア活動の一日の流れなどをお伝えします。（あくまでも第6次派遣の場合です。第7次派遣以降は変更になるかもしれません）

福島のボランティア数は、他の震災地域より原発の影響もあり、少ないそうです。それでも、いわきボランティアセンターへ来る、ボランティアの数は、土日は650名、平日は100名ほどです。土日にボランティアが集中する傾向になってしまい、必要な時に人数が揃わないという問題をかかえています。その点、連合は、まとまった人数のボランティアを継続して派遣（今回は35名）するので計算ができること、他のボランティアと違い、統率も取れていることなどから、被災地では、ありがたく思われています。「組織の力」というものを改めて発揮できた連合だからできる活動だと実感しています。

基本は班単位で活動します。各班（全労金でひとつの班）には、班長（全労金班は、本郷委員長が班長）がいて、今日の活動の反省点、翌日の活動や活動場所、注意点など、全て班長会議で決定されます。

朝は7:00に全員で朝食、8:00にホテル前に集合し、ミーティングを行い、乗り合わせで「いわきボランティアセンター」へ向かいます。そこで、スコップや土のう袋など資材を調達し、現地へ向かいます。現地へ到着後、依頼主と引率責任者が話しをし、依頼内容を確認します。ボランティアセンターが把握している内容と現地での内容が必ず一致するとは限りません。基本は、現地で依頼主と話をし、依頼主の意向に沿った活動になります。

引率責任者は、依頼主から聞き取った内容を各班長へ伝え、活動の進め方や班ごとの役割を決め、活動に入ります。適宜、休憩や昼食を取りながら活動を行います。（弁当と水の提供はあります）活動は、作業が途中で15:00に終了し、ボランティアセンターに帰ります。ボランティアセンターでは、スコップなど借りた資材を洗浄してから返却します。

「いわきのボランティアセンター」では、資材の管理を連合が担っています。これは、いわきのボランティアセンターだけでなく、ここでは、連合は、ボランティアに参加するだけでなく、運営にも携わっています。

その為、一般のボランティアが資材を返却する16時くらいには、我々も資材の洗浄などの手伝いをする場合があります。

それが終了すると乗り合わせでホテルに帰り、終了です。夜ご飯は各自で取ります。

これが一日の流れです。車は、6台あり、夜は借りることができます。車で行くことにはなりますが、コインランドリーを利用できますし、コインランドリーに行く時間はあります。我々は、二回も行きました。コインランドリーに行くことができれば、着替えなど荷物を減らすことも可能です。また、陽射しが強いので日焼け止めは、かかせません。暑くなっているので草履や半ズボン、またホテルでの自由時間を快適に過ごすために、本など

を持って来るといいかもしれません。第6次派遣のボランティア最中に、我々の班以外の方が、ケガをし、活動中は、長袖シャツを着ることになりましたので長袖シャツは、用意した方が良いでしょう。

次回以降に参加される方は、参考にいただければと思います。

以上、小池が報告しました。長文で失礼しました。

## 《第6次活動7日目》 6月9日



昨日の夕食は、いわき市内のファミレスに行きました。お店の中に入り暫くすると何か違和感が…地震での地盤沈下によると思われませんが建物が道路側に傾いているのです。ボールを置けば勢いを増して転がりそうなくらいです。一見、外構えは被害がなさそうな建物でも、内側では被害を受けている建物が至る所にあるという事を想像せずにはいられません。そして、その中で仕事や生活をしておられる方々に頭が下がる思いでいっぱいになり、改めて街の中でも震災地である事を実感することとなりました。

さて、今日は第6次が派遣されてから一番と言える晴天の中での作業となりました。昨日の午後から休養を頂いた事もあり、蓄積していた疲労も幾分か解消している事が、連合派遣団の皆さんの表情や会話から伺えました。休養は、疲れた身体を休め、張り詰めた緊張感から解放し、次に繋がる活力を生み出す上で重要である事を、重労働の作業を通じて特に実感します。

また、昨日から出発に際に、皆で円陣を組み安全唱和を実施しています。電機連合の方の掛け声で『今日もゼロ災でいこう！よいかー！』皆の指差呼称で『ゼロ災でよし！』

派遣メンバー全員が安全作業に対する気持ちを一つにする瞬間です。

さて、今日の作業は当初の予定では深さ1.7メートルの用水での砂上げとなっていました。急遽、津波被害を受けた宅地から瓦礫等を撤去する作業に変更となりました。(今回も臨機応変に対応)

作業現場は、豊間地域の海岸線から4、5百メートルは離れている住宅区域です。作業場所周辺では住宅の天井近くまで浸水した後が残っており、津波の威力や恐ろしさを感じざるにはいられない被災地域です。作業内容は、土砂の中から瓦礫、ガラス類、鉄類、その他不燃物、可燃物を分別するわけですが、掘っても掘っても瓦礫等が埋まっており、元通りの綺麗な土地にするには、まだまだ人も時間も必要な場所です。

休憩時間に、依頼主さんから津波が押し寄せてくる状況をお聞きすることができました。1階は完全に浸水していますが、家屋を流される事なく2階に駆け上がり、何とか難を逃れたそうです。しかし、2階からは助けを呼ぶ声が方々から聞こえ、また惨劇を目にされたそうです本当に心が痛みます。

作業残すところ一日となりました。まだまだ手付かずの被災地域は沢山あり、作業を続けていたい気持ちが強く出て来てますが、後任の派遣団に思いを引き継ぎ、悔いが残らぬよう精一杯残り一日の作業にあたりたいと思います。

写真は、今日の作業現場に掲げられていたメッセージです。『心豊かな仲間となれ！』『豊間』の地で忘れられない元気を貰いました。

最後に、今日もクイズを一つ。写真の機材は何をする為の道具でしょうか？作業内容にもよりますが、私達がこれまで携わった作業の中で欠かす事ができない道具の一つです。

以上、安井からの報告でした。

## 《活動最終日》 6月10日

まずは、クイズの回答です。側溝にはコンクリートの蓋がはまっているケースがあります。この機械で両脇から挟んで持ち上げると、テコの原理でしょうか、楽に動かすことが出来ます。楽といってもそれなりに重いですが、初日、人力だったことを考えるとその差は歴然です。

昨日、ボランティアセンターにペットボトル飲料水が大量に運び込まれていました。見ると送り主に”岐阜県”とありました。活動中は暑く、水分補給が欠かせません。それをセンターよりボランティアに無料で提供頂いています。また、それをセンターに運び込む手伝いをしていた方々の服には“みやざき”の文字が。様々な人がそれぞれ出来ることで復興支援を行っているんだと感じる瞬間でした。

全労金のブログですが、今回の連合派遣メンバー内ではちょっと有名なんですよ。全労金メンバーで順番に書いていることが広まり、活動中や廊下などですれ違くと、“もうブログ書いた？”等声をかけられます。出身地、会社は異なりますが、仲良く連携して活動しています。

さて、本日は安井書記次長、小池副委員長は通常の活動ですが、本郷委員長と筒井はボランティアセンターにて運営補助を行います。

それでは、行ってきます！

## 《活動最終日 その2》 6月10日



今日は本郷委員長と共にボランティアセンターで、現場へ向かう方々のために資材渡し作業を行いました。作業票にどんな資材が必要か記載されていますが、実際、現地へ行かなければ分かりません。行くグループの車両によっても積載量が異なります。ボランティア自身と資材班がその場で選定します。不足したものがあればセンターまで取りに戻ります。まさに“臨機応変に”となりました。最終日の作業を終え、疲れはあるものの4名全員が達成感で満たされています。また、宿泊したホテル、その近辺の食事処をはじめ地元の方々には、ご自分自身が大変であるにもかかわらず温かく対応いただき感謝と共に去りがたい気持ちで一杯です。旅行ではありませんが、自宅へ無事戻るまでがボランティア。気を付けて帰りたいと思います。写真は資材班で頑張る筒井です。（報告者 筒井）

## 《負けるな東北！つなげよう全労金！》 6月11日

今日は帰路に着く日です。いわきに来て、初めて朝から雨が降りました。（別れの涙雨!?) 苦楽を共にした電機連合の皆さん、全電線の皆さん、同じ目的を共有し、無事に活動を行えた事に感謝申し上げます。また、全国の多くの仲間から応援コメントを頂き、感謝の思いでいっぱいです。応援コメントは、メンバーの大きな励みとなり、心の支えとなりました。ありがとうございました。そして、心良く今回のボランティア活動に送り出してくれた職場の皆さまにも心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

震災からちょうど3ヶ月目の今日、私たち第6次派遣メンバーは、この被災地を離れます。今は充実感と無念さが入り交じっているのがメンバーの本音だと思います。正直、作業依頼の中には、完遂できなかったものもあります。それでも依頼主から我々に感謝の言葉がかけられます。津波で変わり果てた家に腰をかけ、海をじっと眺めている依頼主の姿を忘れる事ができません。本当に無念です。いわきが復興をなした時、自分たちが活動した町をもう一度訪れてみたいと思います。いわきの方々は、本当に強く、温かく、やさしかったです。

第7次派遣メンバーへこの思いを託します。「ひとつでも多くの瓦礫を、少しでも多くの砂を取り除いてあげてください」

全国の仲間が第7次派遣メンバーの皆さんを応援します。炎天下の中の作業は、本当にキツイと思いますが、くれぐれもご無理をされないように。福島は今、地震、津波、原発、風評被害の四重苦に見舞われています。そして、被災地では今日もボランティアを待っている人達があります。被災された方が一日も早く元の生活に戻れるよう、支援を続けて行きましょう！がんばっぺいわき！負けるな東北！つなげよう全労金！！（第6次派遣メンバー一同）

以上